

発行日：2026 年 8 月 28 日

2026 平和行動 in 広島に参加して

今年も女性委員会では、平和行動 in 広島に参加しました。広島での時間は、改めて平和の尊さを見つめ直す貴重な機会となりました。資料館見学や集会を通じて、平和の大切さを感じる機会となりました。

1.参加にあたり

連合鳥取の一員として初めて参加した。広島の地を訪れるのは今回が初めてであったが、戦争被爆国である日本の惨禍の歴史と被爆の実相を自らの目で学び、労働組合の仲間として核兵器廃絶と世界の恒久平和への意識を高めることを目的とした。あわせて、現地で得た学びを持ち帰り、次世代へ平和をつなぐ活動に生かしていきたいと考えた。

2.原爆資料館での学び

熱中症警戒アラートによりピースウォークは中止となったため、広島平和記念資料館（原爆資料館）へ足を運んだ。路面電車の車窓からの街並みを見て、戦時下のこの場所にも今と同じ「ささやかな家族の暮らし」や「級友たちとの楽しい時間」が確かにあり、それが一瞬で消し去られた理不尽さに深く思いを巡らせた。

資料館の展示では、犠牲となった子どもたちの写真や遺品が並んでおり、それらが我が子や甥・姪の姿と重なり、言いようのない悲しさを覚えた。被爆当時の人々がどれほどの恐怖を味わったのかと思うと言葉を失った。あの日、我が子を必死に探し、看病し、命がけで守ろうとした親たちの絶望と深い愛情を思うと胸がいっぱいになった。これは決して目を背けてはならない事実であり、伝え続けなければならないことなのだと改めて感じた。また、館内には戦後復興の歩みや核開発の現状も展示されており、平和への強い願いを世界へ訴えかけているメッセージを深く受け取った。

3.平和集会での学び

全国から約 1,700 人以上が参加した集会では、15 歳で被爆された切明千枝子さんの被爆体験を拝聴した。戦時下の軍都として栄えていた広島の様子を知ることができた。あの日、の凄惨な体験を、決して消えることのない辛く苦しい記憶として抱えながらも、私たちに語り継いでくださる姿に深い敬意を抱いた。

また、高校生平和大使の国際的な活動報告も大変興味深い内容であった。「微力だけど無力ではない」という強い信念のもと、平和への願いを主体的に発信する若者たちの真摯な姿に深く心を打たれたとともに、平和を願う思いを次世代へつないでいくことの大切さを改めて感じた。

4.所感

今、私たちが生きている今日は、先人たちが生きたかった未来であり、「生かされている」という尊くてかけがえのないものなのだと、広島で強く気づかされた。

現代に目を向ければ、世界はいまこの瞬間も核兵器の威嚇や軍拡の脅威に晒されており、過去の悲劇は決して他人事ではない。戦争を知る人が少なくなっていく中で、その記憶や教訓が薄れていくことに強い危機感を抱いている。平和は決して自然に守られるものではなく、一人ひとりが関心を持ち、学び続けることで初めて受け継がれていくものだと感じた。このまま無関心でいれば、過去の過ちを繰り返すことにもなりかねないと強く心に刻んだ。だからこそ、今、平和運動の継続は何よりも必要であり、多くの方にこの地を訪れ、その歴史や平和への思いに触れてほしいと切に願う。

広島での平和行動は、心に深く残る学びの機会となりました。
来年度も、より多くの仲間とこの時間を共有できれば嬉しく思います。
ぜひ、来年度の参加を前向きにご検討いただければ幸いです。



女性委員会委員長 桶本 早苗



▲平和行動 in 広島に参加した皆さん



▲献納する様子



▲参加者の皆さんで折り鶴を献納

【今後の取り組み】

12月12日(土)、第31回女性委員会定期総会を開催します。
今年度の活動を振り返り、来年度に向けた取り組みを共有する大切な場となります。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

★ご意見などは連合鳥取まで

TEL: 0857-26-6605

Mail: tottori@tottori.jtuc-rengo.jp

